



ソーメン絞り手拭いから 赤い椿のアンコ手拭いへ



大島のイメージと言えば「三原山と椿、そしてアンコ」。アンコさんの被っている手拭いは昭和に入るとそれまでのソーメン絞りや無地の手拭いから、観光の象徴である三原山と椿の花が描かれている手拭いへと変わっていきました。



昭和20年代 訪問団



昭和14年



ソーメン絞り



花笹柄の手拭い



白地に紺の椿柄



赤い椿の手拭い



昭和20年代
江の島航路キャンペーン

明治の頃日常で用いられていたソーメン絞り手拭いは、次第に正装用のものとなりました。

昭和4年、天皇行幸の際も手拭いは取らずお出迎えしました。この時「ソーメン絞りの手拭いは軍人の制帽、西洋夫人の載帽と同様、つけていて礼にかなう。凛々しく奥ゆかしきもの。」と嘆賞されたことから、ソーメン絞りは大島の誇れる風俗であり、価値あるものです。

戦後「紺屋」と呼ばれる染物屋も消え、今では手元に持っている人も少なくなり、貴重なものとなりました。この大島独特のソーメン絞りを残していきたいと思います。皆様のご協力、ご支援をお願い致します。